

皆さんは、ここ、日本に世界をけん引する複数の原子力(原発)プラントメーカーが存在することをご存じでしたか？

原子炉の心臓部を担う圧力容器の製造企業である日本製鋼所(JSW)もその一つで、実に、世界シェアの80%を占めています。

政府、自治体、電力会社などの利権構造については今や多くの人々が知る事実となりましたが、決して忘れてはならないのが、これら原子炉メーカーの存在です。

日本は世界で初の被爆国として、広島・長崎で核の洗礼を受けました。

そして今回の福島原発事故ではその壊滅的な惨状を目の当たりにしています。

いまだ事故終息の糸口も見えない中、強引に他の原発を再稼働させるなど、政府を中心として相も変わらず経済最優先の姿勢を見せています。

経済を最優先させたところで、命を育む母なる大地の存在なくしては、私たちは生きていくことができません。

そこに住む生命そのもののみならず、この大地自体を脅かすもの、それが原子力です。

人間と核は未来永劫共存できず、フォールアウト(放射性降下物)に民族や国境の垣根はありません。

自然の摂理に反して核を強引に破壊させ、命の尊厳を無視して危険にさらす行為など、人間として決して許すことはできません。

今ある原発をすべて止めることができたとしても、また次々と新たな原発が建設されたのでは意味がありません。

現在、世界には4大原子力メーカーと呼ばれている東芝・ウエスティングハウス(米・WH)、日立製作所・ゼネラルエレクトリック(米・GE)、三菱重工業・アレバ(仏)、ロスアトム(露)と、それらに続く斗山工業(韓)があります。

特に日本と韓国のメーカーはアジア地域への積極的原子炉(含むプラント)輸出を推進しており、またモンゴルではCFS構想(核の採掘、精錬等から廃棄物処理までを一貫して行う)が秘密裏に進められております。

そこで、私たちは反原発を提唱する国内外の人々との連携のもとに、原子力メーカーに対して、その部門からの即時撤退・廃止並びに輸出の中止を強く求めるものであります。